

市立旭川病院 医療連携NEWS



患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します。

No. 7 2013 / 6 / 21

地域医療連携のつどいを開催いたしました ～5月27日 月曜日～

地域の医療機関の皆様方におかれましては、日頃より当院との医療連携にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

今春は例年になく曇りや雨の日が多く低温が続き、5月に入っても雪の日が多く春の訪れはいつになるのか心配しておりましたが、さくらも昨年より18日遅い5月20日に満開、以降は晴れの日が多く、28日には旭川で5月の最高気温を更新する30.3℃を観測し、一気に夏が訪れたような気候となりました。

そのような中、5月27日に旭川グランドホテルにおきまして、地域医療連携のつどいを開催させていただきました。この会は、地域の先生方と当院医師との顔の見える距離でお互いの関係を深め、より一層の医療連携を推進することを目的に3年前から開催しております。

今年は、講演会の統一テーマを「心臓血管治療の最前線」とし、当院の精鋭医師3名による講演を行いました。

演題1は「心臓カテーテル治療のトレンド」 石井 良直 循環器内科診療部長

演題2は「心臓血管手術の最前線」 大場 淳一 副院長（胸部外科担当）

演題3は「血管内治療のトレンド」 花輪 真 放射線科診療部長

引き続き、会場を代えて情報交換会となり、旭川市医師会 山下会長に乾杯のご発声を頂戴して、食事をしながらご歓談いただくなど交流を深めることができました。

今回は、講演会で154名、情報交換会で129名とこれまでで最も多く、地域の先生方も47名のご参加をいただきました。当院スタッフもより多くの先生方と顔を合わせ、言葉を交わすことができ、今後の医療連携の推進に向けて大きな収穫を得ることができました。

お忙しいところお時間を割いてご参加いただいた皆様方には、心からお礼申し上げますとともに、今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



～ 講演会の様子 ～



～ 立食での情報交換会 ～



院内診療部門のご紹介

耳鼻咽喉科

当科では現在、常勤3人＋外来応援の体制で診療を行っております。

口腔疾患・副鼻腔炎・中耳炎・扁桃炎・顔面神経麻痺・めまいなど一般的疾患から、気管・食道・甲状腺まで、耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患に対応しています。他院では外科で行われることもある甲状腺手術ですが、当院では当科担当となっています。

聴性脳幹反応検査（ABR）、耳音響放射検査（OAE）、電気味覚計検査、鼻腔通気度検査、耳管機能検査など、対応可能です。

放射線科（治療）医と協力して頭頸部癌の放射線治療を、眼科医と協力して経鼻的涙嚢鼻腔吻合術を行っております。

スタッフの紹介

佐藤 公輝（昭和57年北大卒）

着任20年目、トップになって3年目です。近年は漢方治療を強化中です。日本頭頸部外科学会には毎年参加しています。

相澤 寛志（平成6年北大卒）

着任3年目、実はその前にも2年ほど在任していました。日本顔面神経研究会には毎年参加しています。

北尾 恭子（平成18年札医大卒）

着任2年目、昨年、順調に耳鼻咽喉科専門医の資格を取得しました。

安藤 敬子（昭和45年北大卒）

当科の顔として長年親しまれてきました。一旦、定年を迎えるも、まだまだ外来診療に力をふるっています。



佐藤 医師



相澤 医師



北尾 医師



安藤 医師

耳鼻咽喉科外来担当表

	月	火	水	木	金
午前	佐藤・相澤	交代	佐藤・相澤	交代	佐藤・北尾
午後	佐藤・北尾		(初診のみ)		相澤・北尾

CT, MRIなどの医療機器をどうぞご利用ください

当院では、地域医療機関との高度医療機器の共同利用を目的として、患者さんの検査等のお申込をお受けしております。検査等を適切に行い、事故を未然に防ぐため、お手数ではございますが、予約のお申込に際しては、その目的や方法について患者さんにご説明いただき、検査等の種類や対象部位等をお知らせいただけますようお願い申し上げます。

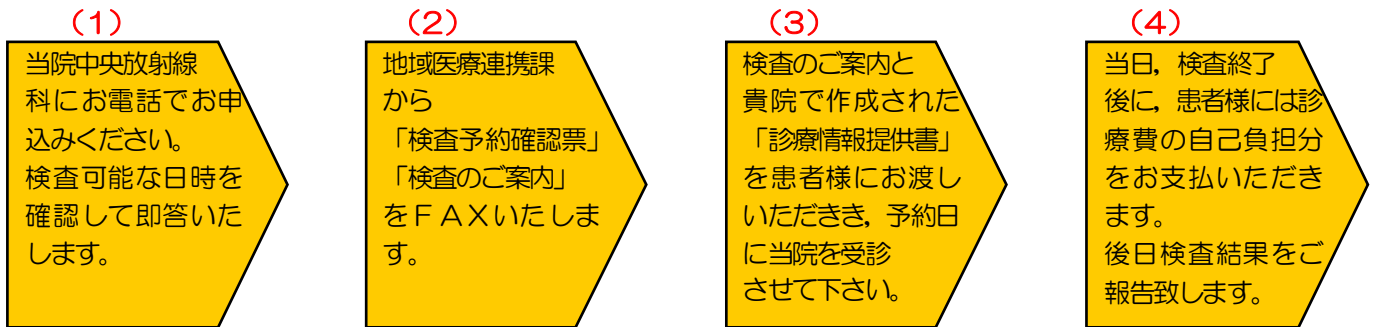
また、④につきましては、昨年暮れに最新機器に更新しました。どうぞご利用ください。

1 共同利用検査等の種類

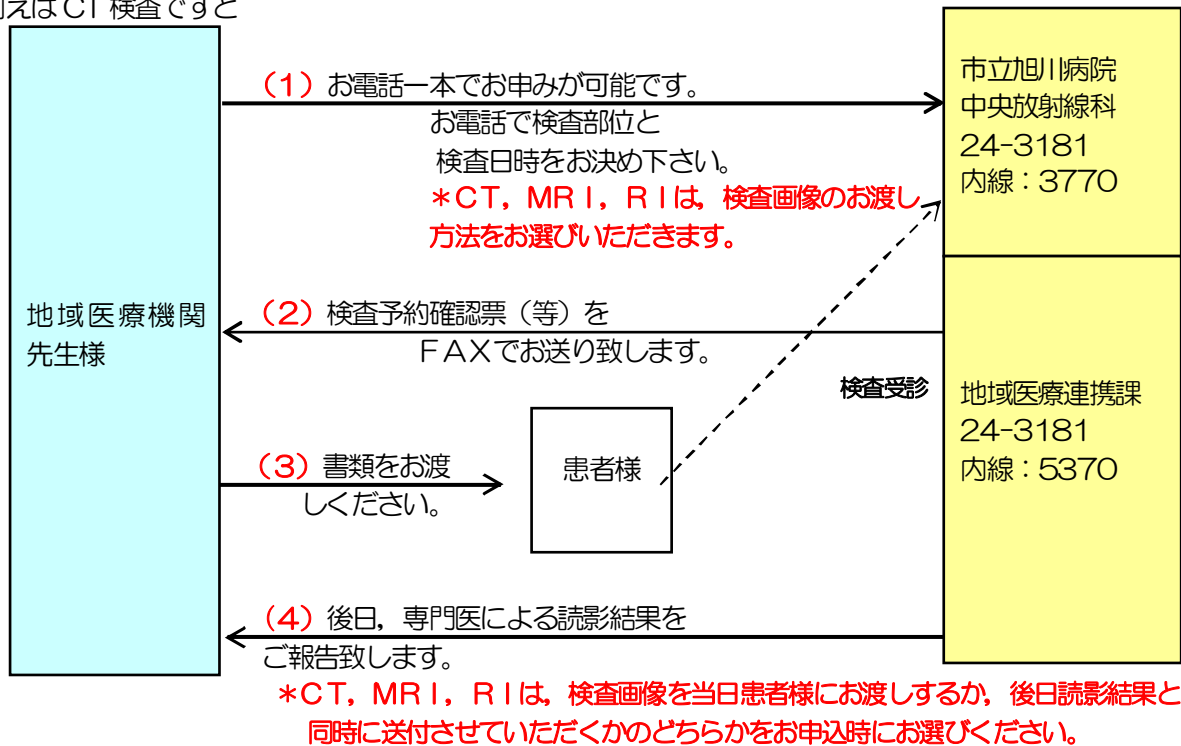
- ①CT ②MRI ③RI ④骨密度測定 ⑤放射線治療（リニアック）

2 お申込方法

検査①②③④につきましては、以下の流れでお願い致します。



例えばCT 検査ですと



⑤の放射線治療（リニアック）について：紹介予約により受診いただいた上で治療方針を決めさせていただきます。FAXにより地域医療連携課で受診の予約を承ります。

3 お申込先

市立旭川病院（代表電話）0166-24-3181

①CT（内線3770） ②MRI（内線3772） ③RI（内線3724）

④骨密度測定（内線3770） ⑤放射線治療（リニアック）（連携課 内線5370）

※ご不明な点がございましたら、地域医療連携課（24-3181 内線：5370）まで、お気軽にお尋ねください。

医師紹介 私の履歴書



血液内科診療部長 柿木 康孝

市立旭川病院血液内科に勤務して今年で8年目になります。実は研修医時代にも1年半ほど市立病院にお世話になっているので、通算すると10年目となります。

私は羽幌町生まれで留萌育ちの道産子です。小学校は留萌市立小学校でその当時すでにかんりの歴史を持っていたようで校舎が大変ボロかったのですが、その校舎が火災で全焼したときは子供心に茫然としたのを覚えています。

中学校（留萌市立港南中学校）ではいろいろな球技スポーツ（とりわけバレーボール）をやり、中体連等に出場したのはいい思い出です。もちろんほぼ1回戦敗退です。なんと中学校でも校舎の火災に合い、何か不吉な予感を覚えたのを記憶しています（もちろん、その後は何もありませんが・・・）。高校は留萌高校で、高校ではスポーツはやめて、部活は文科系（囲碁部）をちょろっとやりましたが、ほぼ帰宅部に近かったと思います。大学は弘前大学に進み、弘前市で6年間の学生生活を送りました。初めての本州での生活となり新鮮味と同時に戸惑いもありました。弘前は桜で有名ですが、桜の和風的な華やかさ・悠然さは圧巻で、桜の木の下で味わうお酒は格別でした。大学時代はとにかく留年しないように最低限の学習だけはして、追試も何でも受けて、あとはいわゆる“社会勉強”と称していろいろな事をやりました。また、医学部の囲碁部にも入っていて、東北遠征に出かけたりしていました。昭和58年に卒業後、北大の第3内科に入局し、学生時代最も不勉強だった分野：血液学をやってみようと軽い乗りで決めてしまいました。最初の1～2年は血液像を顕微鏡で診るのもあまり興味を感じず、“自分は本当に血液をやっているのかな？”と自問自答していましたが、患者さん（特に若い白血病の女性）と接しているうちに、自分と同じ世代の人が亡くなっていく・・・ということに何か“やるせなさ”みたいなものを感じ、一気に迷いなく血液学にのめりこんでいったように思います。

今年で卒業30年が経ちました。その間、道内の市中病院（札幌、旭川、函館）で一般内科、血液内科の患者さんを診ていくうち、基礎医学的、科学的な考え方、知見も大切と考えるようになり、すでに年齢は30歳を超え、結婚して子供も2人居ましたが、基礎医学系の大学院に入り、臨床のバイトをして生計を立てながらリサーチ生活をしました。さらにそのつながりで米国へも2年間留学しました。米国ではリサーチでの世界的トップレベルを垣間見ましたし、同じラボに居た韓国人、中国人との歴史認識（今まさにホットな話題ですが）の違い、初等教育の違いを思い知らされました。そのおかげで、日本のいい面、悪い面が見えてきた感じがしましたし、結果、益々日本が好きになりました。帰国後は再度臨床の現場に戻り、帯広厚生病院に4年間、旭川厚生病院に4年間居て、平成17年4月から市立旭川病院血液内科に勤務しています。で、白血病をはじめとした血液腫瘍はどういう状況かということ、かなり治療は進歩し、治っている患者さんも居ますが、実感としてはまだまだ治っていない、治せないという現実と直面しています。自然の創造物はやはりかなりの複雑系です。これからもめげずに“Think globally, Act locally”を心して日常診療をしていきたいと考えています。

編集後記

日頃、当院医療連携業務にご協力いただきありがとうございます。

当院、地域医療連携課は、平成24年度から事務部門から専門職の部門に独立し、スタッフも医師2名（兼務）、ソーシャルワーカー5名、看護師3名、事務3名、計13名のメンバーで地域医療連携の強化と医療相談機能の充実を図っているところです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

市立旭川病院 地域医療連携課

〒070-8610

旭川市金星町1丁目1番65号

TEL (0166) 24-3181

(内線5370)

FAX (0166) 26-0008

E-mail: renkei@city.asahikawa.hokkaido.jp